

---

# 生産者と消費者の新しい地域づくりコミュニケーション実験

## - 携帯電話ライブ映像配信サービスを活用して -

農業工学研究所農村計画部 集落計画研究室  
唐崎卓也・山本徳司

---

### 1. 実験の目的

生産者から消費者に向けた情報発信が盛んになりつつある。これまで、生産履歴情報を主としたテキストベースの情報発信が多く行われてきたが、本実験では、より消費者にとって親しみやすく、生産者にとっては作成が容易なビデオ映像をコンテンツに用い、携帯電話（NTT ドコモ・FOMA）の画面から消費者に農産物に関する情報提供をするVライブによるビデオライブラリの視聴実験を行う。

### 2. 実験の概要

（1）実験の概要：茨城県谷和原村・地域物産センター「ほっとやわら」に出荷する生産者A氏の協力を得る。モットーや農園紹介などに関する複数のビデオ映像をVライブのビデオライブラリとして作成する。実験日に店舗駐車場に特設テントを設け、店舗に訪れた顧客を対象に、NTTドコモ社が提供するFOMA携帯端末を貸し出す。顧客はA氏の農産物に貼付されたQRコードをFOMA携帯でスキャンすることで、ビデオライブラリを閲覧できる。

#### （2）実験期間

実験期間：2004/11/20（土）の創立記念フェア時に行う。

開店前の9:30に顧客の受付を開始、17:00に終了する。

#### （3）場所

店舗名：茨城県谷和原村・地域物産センター「ほっとやわら」店舗前特設ブース。

運営主体：ほっとやわら事業協同組合

住所：〒300-2445 茨城県筑波郡谷和原村小絹1216-1

電話番号：0297-52-6330

営業時間：午前10時～午後7時

#### （4）方法

1）特設ブースにて、NTTドコモ社提供によるFOMA機種（5台）を顧客に貸し出す。

顧客は店舗において、FOMAを用いてビデオライブラリを自由に参照できる。

2）ビデオライブラリは農業工学研究所が作成し、予めサーバへ転送する。番組数は5とする。

顧客がQRコードをスキャンした後に、複数のビデオライブラリの中から番組を選択できる仕組みをつくる。

3）FOMA機種のリターン時には使用感に関するアンケートを実施する。

#### （5）ビデオライブラリの例

生産者個人・ご家族からのメッセージを中心とするタイプ

生産している農産物や営農上の工夫を中心としたタイプ

圃場を中心とするタイプ

地域環境を中心とするタイプ

ほっとやわら店内のビデオライブ

